



＜大雪の跡を残すパラマス校＞ ここNJ補習授業校 (Paramus Catholic High School)は先月23日(土)の大雪が今でも残り、1/30の昼休みは晴れているにもかかわらず、子どもたちは室内で過ごしました。

2月3日は「節分」、4日は「立春」です。暦の上ではこの日から春になります。春はもうそろそろ来ています。

如月(2月)に入りました。如月(きさらぎ)の由来は、寒さで着物を重ね着することから「着更着(きさらぎ)」と言うようになったそうです。



＜昼休み、ペーパーサートで遊ぶ2年生＞



漢字の覚え方



補習授業校の子どもたちにとって漢字は大きな課題の一つです。先日実施したアンケートでも、「漢字学習は非常に難しく、家での学習も苦労しています。」というご意見が寄せられました。

そこで、今回は漢字学習の方法について少し説明したいと思います。

＜第一は意欲＞

一番大切なことは、意欲を持たせることです。「漢字は楽しい」「漢字は好きだ」という気持ちを育むことで、もっと知りたい学びたいという意欲につながります。

そのためには、子どもに「やれば出来るんだ。」という有能感を持たせることが大切です。一朝一夕に身につくものではありませんが、少しでも出来たら「認めて、ほめる」ことを積み重ねるしかありません。具体的には、漢字を覚えたらほめる。漢字テストなどで少しでも出来たらほめる。逆に少しぐらい漢字を忘れても怒らない。点数が悪くても叱らない。ことが大切です。

＜音読の徹底練習＞

漢字の習得方法は様々だと思いますが、ここでは一般的な方法をお知らせいたします。

漢字はまず読むことから始めましょう。具体的には、国語の教科書を何度も音読することです。習っている範囲の漢字がスラスラ読めることが基本です。これは初等部の時だけでなく、中・高等部においても続けることをお勧めします。

＜覚え方：「短期記憶」の貯蔵庫へ＞

次に、読むことができることを前提として、漢字を覚えます。覚える方法は、指先を集中させて

①「なぞり書き」2回：ドリルの文字を指先で、正しい筆順でゆっくり丁寧になぞります。



②「空書き」2回：漢字を指先で机の上や人の背中などに、筆順の順番を唱えながらゆっくり丁寧に書きます。



③ドリルの練習欄(4回練習)に書き順通りに鉛筆で書きます。



④ドリルの例文を2回ノートに書きます。(この時、例文の場面をイメージしながら書くとさらに定着します。)これで、脳の「短期記憶」の貯蔵庫に新出漢字が格納されました。

＜「反復」＝「長期記憶」の貯蔵庫へ＞

これを「長期記憶」の貯蔵庫に移さなければなりません。その方法は「反復」です。

反復方法→①24時間以内に復習します。例文を2回、ノートに書きます。②1週間後(朝テスト前日の金曜日等)に例文を2回練習します。③1ヶ月以上空けて(漢字確認テスト時等)練習します。

<「睡眠」＝記憶の熟成期間>

最後に、記憶には「睡眠」（熟成期間）が必要です。寝ている間に他の記憶とつながって、確かな長期記憶となります。この現象をレミニセンス効果と言います。寝ることも大切な学習です。

レミニセンス効果：記憶した事柄が、その直後よりもある程度の時間を経過した後の方が明確に思い出されること。

<日常に使うほど定着率が高い>

漢字習得を支援する方法として、日常的に漢字を使うことで定着率を高くすることができます。

海外では、家庭内に漢字環境を意識的につくる必要があります。具体的には、食卓に漢字カードを備えて食事中の会話に活かす。寝室やトイレ、バスルームなどに漢字表や日本地図を掲示する。日本語のカレンダーで季節等の漢字に慣れる。手紙や日記で意識的に使う等々です。

こんな工夫をしています

週1回の補習授業校において、限られた授業時間の中で少しでも学習効果をあげるために教師は様々な工夫をしています。その工夫の一端をご紹介します。

<個人用ホワイトボード>

自分の考えを深めたり、考えや意見、詩や俳句などを書いて発表する時に使っています。



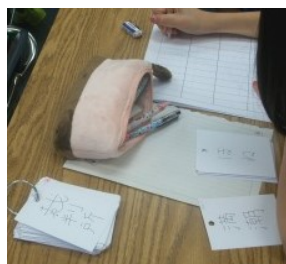
<補助の小ホワイトボード>



デジタル教科書等でスクリーンを使用している為、説明が十分に出来ない時などに使用しています。

<漢字熟語帳>

表は漢字の熟語、裏は読み方や意味を書き、隙間の時間で個人の反復練習に使っています。



<漢字フラッシュカード>



授業が早く終わった時などの隙間の時間に、漢字の定着を促進するために使用しています。

<ペープサートで音読>

ペープサートで国語で学習した物語文などの内容を想起させながら、音読の定着を図っています。



音訓かるた と 新出漢字

「牛乳は 牛がつくるよ おいしいな」

「病気はね 病の一種だ こわいんだ」



今、3年生の国語は、「音訓かるた」の学習をしています。これは、今年改訂になった教科書の新たな内容の一つで、

かるたの読み札を漢字の音読みと訓読みの両方を使って作る学習です。子どもたちは作り方が分かると、次から次へと楽しい読み札を想像豊かに作り出していました。改訂教科書は子どもたちの意欲を上手く引き出す工夫が随所に見られます。

一方、3年生のあるクラスは、年間の新出漢字200字が終了しました。



(漢字終了を告げる様子)

担任から「これで3年生の漢字は全て終わりました。」と伝えられると、「やったー。」「あとは漢字確認テストだけだ。」と教室の緊張が一気に緩みました。他の学年でもそろそろ終了する時期です。因みに初等部で習う漢字は、1年 80、2年 160、3・4年各 200、5年 185、6年 181 の合計 1006 字です。

